

定期市開催・運営の問題構造に関する研究*

A Study on Systematization of Regular Markets Problems

折田 仁典**・加藤 裕康***・清水 浩志郎****

By Jinsuke ORITA, Hiroyasu KATO and Koshiro SHIMIZU

1. はじめに

我国における定期市は近畿を中心に古代よりみられ、中世が全盛期で全国各地に分布したといわれている^{1) 2)}。現在においても長い歴史と伝統に支えられ多くの地域で身近な小売り機能として機能しているが、中には「輪島の朝市」のように市への出店者が200軒から400軒にも達し、年間訪問客220万人という観光の目玉となっている定期市もみられる³⁾。また、本研究の分析対象地域である秋田県においても長い歴史と伝統を有する定期市がいくつか存在し、地域の発展に貢献している。例えば、秋田県五城目町における定期市は500年の歴史があり、町を代表する観光資源となっているとともに、「故郷の味、顔、誇り」として機能している⁴⁾。

定期市は道路、寺社境内、広場さらには常設の建物など様々な場所で、一定の周期に従って開催されている⁵⁾。販売される品目は食料品、衣料、雑貨、農家の自家生産野菜および加工品など多岐にわたる。販売・購入方法は出店者と購入者の「Face to Face」から始まり、会話が重要な要素となっている。ここで形成されるコミュニケーションは近年多くの店舗が展開されたスーパーマーケットにはみられない。したがって、販売品の新鮮さなどの要因の他にも昔ながらのコミュニケーションが存在する定期市は、地域住民のみならず周辺地域からの利用者を誘客し、出店者、買い物客さらには地域全体にとっても貴重な存在となっている^{6) 7) 8) 9)}。

このように長い歴史と伝統に支えられ多くの地域

で開催されている定期市は、出店者の後継者問題や車社会への立遅れなどに伴う顧客の減少により、必ずしも活気を帯びたものではないのが現状である。しかしながら、「地域の活性化対策」や「賑わいのある町づくり」の観点に立てば、今後とも伝統ある定期市を発展させ継承していく必要がある。それは利用客が地域住民のみならず周辺地域にも及んでおり、交流人口の拡大を図れる要素が多分にあること、さらには地域イメージの向上に寄与すると同時に地域のシンボルとして位置づけられると考えられるからである。とりわけ、人口が減少し活性化対策が急務の過疎地域においては地域振興の1つの手段となり得るものと思われる。

筆者らは、このような問題認識のもとに、究極的目標を『定期市を振興させ、地域を活性化することにおいて、定期市開催・運営上の問題の全体像を定量的に把握するとともに問題の構造化を行い、さらにはその問題構造から定期市開催・運営上の問題の解決方策を検討してきた¹⁰⁾。この研究では、結論の一つとして、定期市の開催・運営にあたって「開催場所の問題」が大きく影響していることが判明している。これにより、道路や広場など開催場所の形態によって定期市開催・運営上の問題構造が異なると考えられるが、この研究ではその差異については明らかにしていない。また、秋田県内69市町村の商業・観光課の担当課長を被験者とした定期市問題の構造化に関する調査からは、定期市の開催にあたって行政が今以上に積極的に介入・支援する必要があることが結論として得られた。しかしながら、定期市に携わる人々の立場によっては定期市問題の問題認識が異なると考えられ、定期市を実際に開催・運営している開催者からみた問題構造についても調査を行う必要があると思われる。

本研究は、以上のような視点から定期市開催・運営上の問題を構造化し、定期市問題の全体像をより

*キーワード：定期市、問題の構造化、地域活性化

** 正会員 工博 秋田高専助教授 環境都市工学科

〒011 秋田市飯島文京町1-1、TEL 0188-45-2151、FAX 0188-57-3191

*** 学生員 秋田大学大学院鉱山学研究所

〒010 秋田市手形学園町1-1、TEL 0188-89-2388、FAX 0188-37-0407

**** 正会員 工博 秋田大学教授 土木環境工学科

〒010 秋田市手形学園町1-1、TEL 0188-89-2359、FAX 0188-37-0407

明らかにすることを目的としている。なお、問題の構造化には DEMATEL 法 (Decision Making Trial and Evaluation Laboratory) を適用した。

2. 定期市に関する既往研究

定期市に関する研究は古くから行われ、分析対象もある特定地域の定期市の現状から定期市出店者・利用者の意識調査、定期市の歴史的な発展過程、定期市による地域、産業などへの効果に関する研究など多岐にわたっている。これらの研究を分析対象に着眼し、分類すれば概略次のようである。

- ①海外の定期市を調査・分析対象とした研究^{1) 12)}
- ②定期市の効果に関する研究^{6) 7)}
- ③定期市の歴史的発展過程および定期市の形態に関する研究^{13) 14)}
- ④定期市に対する出店者・消費者の評価^{8) 9)}

本研究は定期市を振興発展させることにより地域の活性化を図ることを目的に、定期市開催・運営上の問題点を明らかにすることにあるから上記の分類では概ね②および④に関連する。

②の定期市の効果に関する研究には小林、椎名らの研究がある。小林は長野県高森町での事例調査から農家の生産物を朝市で販売することにより農家の生産意欲がよみがえり、地域の連帯が強まったことを報告している。すなわち、朝市開始前は地元商店街からの反発、さらには生産物が消費者ニーズに合致するかなどの不安材料を抱えていたが、実際には地元商店も朝市に参加し、販売も好調で、この結果が地域の振興とふれあい（コミュニケーションの形成）につながったと指摘している。また、椎名は東京品川区を事例として農家の生産物を学校給食に提供したところ評価も良く、さらに日曜朝市を通しての販売では予想を越える結果が得られ、定期市が農家の生産意欲に寄与したことを報告している。これらの研究は根底には農業の立て直しがあり、地域活性化あるいは多面的な定期市の効果計測という視点ではない。また、定量的な分析が行われていない欠点がある。しかしながら、結果的には農家の生産意欲を向上させ、さらに地域活性化に寄与したことを実証的に分析していることは注目される。

一方、定期市の評価に係わる研究には原、川手お

よび日暮、安村らの研究がある。原、川手らは宮城県古川市の八百屋市を分析対象として出店者および定期市利用者の意識分析を行っている。この分析では、「山菜など季節のものがあるから」「珍しい花や植木があるから」「地元の野菜があるから」などが定期市利用理由であることを明らかにするとともに、出店者には収入増あるいは利用者との親密性が増大し交流が促進したなどの効果があったことを指摘している。この研究では、分析を通して定期市は独自の魅力があり、市民生活の中で有意義に位置づけられていると結論づけているが、定量的分析は行われていない。日暮、安村らは定期市の効果を認め、その定着と安定的発展を図ることが農家・消費者・地域にとって重要との認識に立ち、朝市を利用する消費者の特徴を消費者行動から分析し、朝市経営の今後の展開方向を明らかにしている。分析では、数量化理論第Ⅲ類およびクラスター分析を適用し、消費者行動の主要な要因は「総合的商品価値・すぐ消費度」「広域流通産物志向度」「品質重視度」などであることを指摘している。この研究は数学的手法を適用し、定量的分析を行っている点は評価されるが、農業経営の提言に留まり、地域活性化のためには何をなすべきかなどについては言及していない。

以上のように定期市に関する既往研究を概観すれば、定期市を地域活性化の手段とする観点からの研究あるいは賑わいのある町づくりという視点からの研究、さらには定期市運営・開催上の問題点の全体像を明らかにし、問題の構造を分析した研究は見当たらない。

故に筆者らは、定期市が開催・運営される上で諸々の問題を内含していることから、これらの問題の解決を図れば定期市は地域振興・活性化に大きな役割を果たすことができると考え、一連の研究を進めている。筆者らの前の研究¹⁰⁾では、地域住民の定期市に対する評価を明確にし、加えて定期市開催・運営上の問題を構造化して定量的に把握することが問題解決の最適な方法であるという観点から定期市を支援する側の「行政」の問題認識を構造化した。本研究はこの結果を踏まえ「開催者」の問題構造を分析し、「行政」と「開催者」との間の問題認識の差異を明らかにするとともに、問題解決策について言及するものである。

3. 調査および分析手法

(1) 調査の概要

筆者らの一連の定期市に関する研究では、定期市を地域の活性化に寄与させようとの観点から定期市の現状把握として地域住民の定期市に対する意識調査を平成6年11月に実施した。次いで、定期市開催・運営上の問題構造を明確化するために、秋田県内69市町村の商業・観光課の担当課長を被験者として平成7年2月に、また秋田県内で開催されている定期市の実施主体の代表者を被験者として平成7年8月にDEMATEL法適用のための調査をそれぞれ実施した。ここで行政および開催者の双方を分析対象とした理由は、前述のように定期市に対して開催場所の提供など行政が少なからず関与していること、さらに両者の間には定期市開催・運営上の問題に関して問題認識が異なると考えたからである。また商業・観光課の担当課長と定期市の実施主体の代表者を被験者としたのは、DEMATEL法が問題の構造の把握に主眼をおいているため被験者にはその問題に精通している人が望ましいからである。このときの評価要因は既往研究を踏まえ、表-1に示す19項目とした。調査票の回収率は行政が84%（配布69票、回収58票）、開催者が65%（配布37票、回収24票）であった。なお、「行政」の分析には32地域（定期市を開催していない、あるいは定期市開催・運営上に問題はないと回答した地域にはDEMATEL法が適用できないので分析からは削除した）のデータを用いた。したがって、本分析における「行政」は定期市開催地域で、かつ定期市開催・運営上何らかの問題、課題を抱えている地域である。

(2) DEMATEL法

問題の構造化に適用したDEMATEL法は、社会現象に対する個々の人間の意識や判断をグラフ理論を適用することにより構造化する手法の1つである。この手法を本研究で用いた理由は、①複合化された評価要因の構造を階層的に図示できる、②各評価要因間の関連度を定量的に分析できる、③意思決定のメカニズムを視覚的にとらえられる、④複数の被験者の考え方を統合することが可能なため共通認識が得やすい、などの利点があるからである。

表-1 評価要因

①：駐車場整備の立遅れ	⑪：商品の季節性の衰退
②：出店場所の区割り面積の狭さ	⑫：商品の衛生上の問題
③：施設整備の立遅れ	⑬：宣伝活動の立遅れ
④：除排雪対策の立遅れ	⑭：若年層の関心の低下
⑤：一般通行車両への影響	⑮：行政の支援対策の立遅れ
⑥：景観上の問題	⑯：商品の品数の画一化
⑦：ゴミ処理の問題	⑰：商品価格の問題
⑧：周囲の商店との競合問題	⑱：開催場所の問題
⑨：開催日、開催時間の問題	⑲：コミュニケーションの場としての施設整備の立遅れ
⑩：後継者問題	

DEMATEL法では、分析の結果得られた総合影響行列の行和、換言すればある評価要因が自身も含めたすべての評価要因に与える影響の度合を影響度、総合影響行列の列和（すべての評価要因から受ける影響の度合）を被影響度と呼んでいる。また、影響度と被影響度の和、つまりその評価要因の全体における重要さの目安となる度合を重要度と定義している。したがって、他の評価要因に影響を与える度合いが大きく、かつ影響を受ける度合、すなわち被影響度が大なる評価要因は重要度が高い値となるため問題解決の鍵を握る重要な位置にあることになる。また、影響度が大なる評価要因は他の評価要因に影響を与える度合いが大きいため影響度大なる評価要因の解決が影響を与えている評価要因の解決につながると理解される。本分析では、評価要因の重要性をみるために重要度、また他の評価要因への影響を把握するために影響度の2側面から考察を加えた。

4. 分析結果

(1) 主体別の問題の構造化

定期市開催・運営に対する問題認識は定期市に携わる人々の立場、いわゆる主体によって異なると思われる。そこでDEMATEL法を用いて行政および開催者それぞれの問題認識の構造化を行い、その構造の違い、とりわけ行政支援のあり方を中心に考察を加えた。

図-1および図-2は、重要度によって行政および開催者の平均構造を示したものである。図中の各評価要因間の総合影響行列の度合の表示は「強」を太線、「中」を細線とし「弱」は省略した。各要因

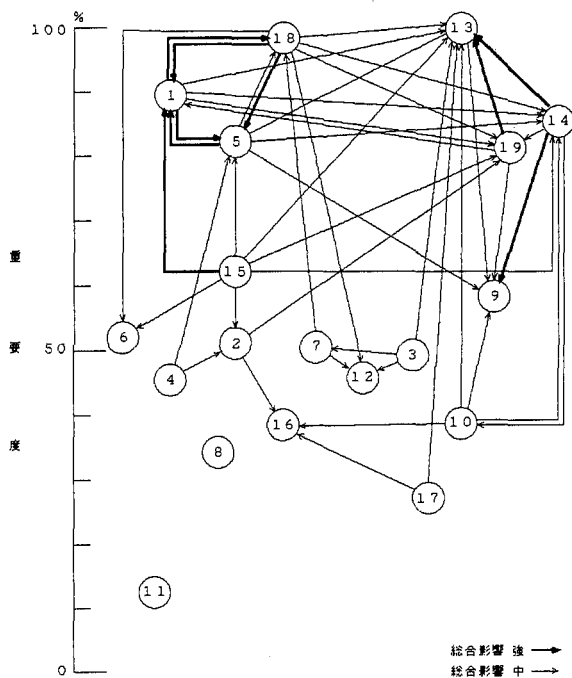


図-1 重要度による行政の平均構造

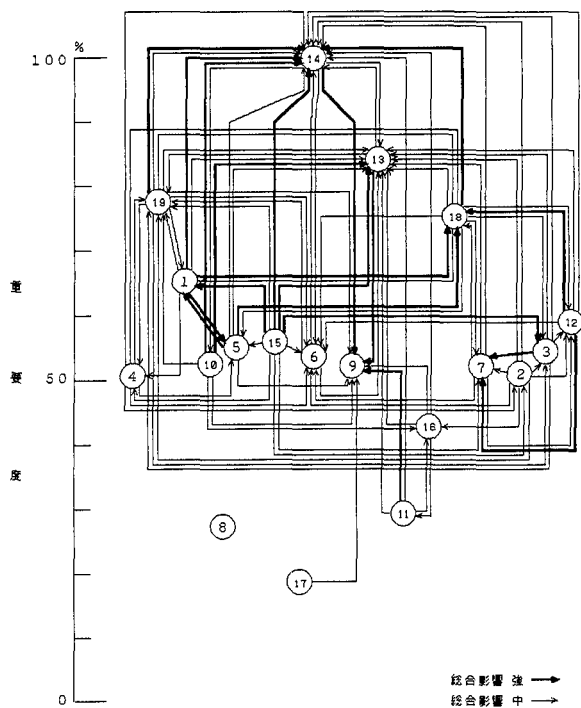


図-2 重要度による開催者の平均構造

の上下関係は、一連の要因のうち重要度が高いものほど上になるように位置し（最も高い要因を100とする）、左右関係は特別の意味をもたない。

行政の平均構造をみると、『⑬宣伝活動の立遅れ』の重要度が最も高くなっており、定期市の抱える問題の中で最も重要な要因として位置づけられている。次いで、重要度の高い要因としては『⑯開催場所の問題』『①駐車場整備の立遅れ』などが挙げられ、駐車場整備も含めた「開催場所の問題」も定期市開催・運営上の重要な問題として認識されている。ここで、『⑮行政支援対策の立遅れ』からの影響ルートに着目すると、この要因は『⑬宣伝活動の立遅れ』にはあまり大きな影響を与えておらず、『①駐車場整備の立遅れ』に大きく影響している。このような結果をみると、行政は定期市を活性化するためには「宣伝活動の強化」を行い、定期市を広くPRすることが必要であり、行政支援が遅れていたとの認識があるものの、宣伝活動は本来開催者自身が行う分野である、あるいは行政におけるハード面整備とソフト面整備の担当が異なっているためか、行政支援の主な対策として駐車場、開催場所の整備等の「定

期市を行う施設としての環境整備」への対応の遅れの方が強く認識されているようである。

一方、開催者の平均構造によると、『⑭若年層の関心の低下』が最も重要な要因として位置づけられており、次いで『⑬宣伝活動の立遅れ』が挙げられている。ここで、行政と同様に『⑮行政支援対策の立遅れ』からの影響ルートに着目すると、『⑭若年層の関心の低下』へは直接および『①駐車場整備の立遅れ』を介して、また『⑬宣伝活動の立遅れ』へは直接大きな影響を与えていることが明らかとなった。このことから開催者は定期市を活性化するためには定期市を広くPRすると同時に、利用客と成り得る若い世代の人々の関心を集めることが重要であると認識しており、そのため行政支援の一環として「宣伝活動への支援」と「若い世代の人々の関心を高める方策」を望んでいるとも理解される。

行政・開催者双方の行政支援に対する意識を比較したところ、行政が主な支援対策として考えている駐車場の整備等の「定期市を行う施設としての環境整備」については、開催者も若い世代の人々の関心を高めるための方策の1つとして重要であると認識

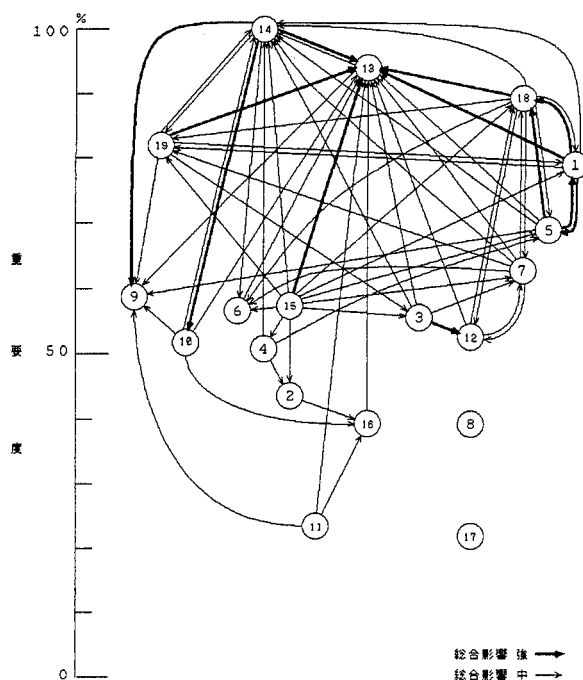


図-3 重要度による行政と開催者の平均構造

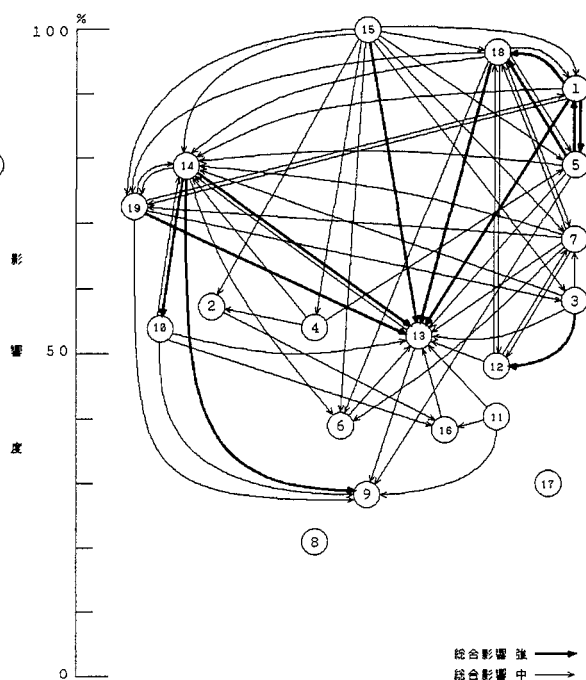


図-4 影響度による行政と開催者の平均構造

していることが判明した。しかしながら、開催者はこれまで行政側が支援対策として遅れていた「宣伝活動の強化」についても支援を期待しており、今後の重要な課題として位置づけられる。

(2) 2つの主体の平均構造

定期市の問題構造は主体によって異なり、行政支援に対する意識にも差異がみられることが明らかになった。しかしながら、行政支援対策に行政と開催者双方の意見を組み入れるためには、2つの主体の平均構造を得ることが必要であると考えられる。そこで行政と開催者の回答をまとめて DEMATEL 法に適用し、問題の構造化を行った。

図-3、図-4は2つの主体の平均構造を重要度および影響度によって表したものである。図中の各評価要因間の総合影響行列の度合の表示は図-1、図-2と同様である。

重要度による平均構造をみると、重要度の高い要因としては『⑭若年層の関心の低下』『⑬宣伝活動の立遅れ』などが挙げられる。ここで『⑮行政支援対策の立遅れ』からの影響ルートに着目すると、『⑭若年層の関心の低下』へはそれほど大きくは影

響していないものの、『⑬宣伝活動の立遅れ』へは大きな影響を与えている。また、行政の平均構造で影響が大きかった『⑮行政支援対策の立遅れ』から『①駐車場整備の立遅れ』への影響ルートを見ると、それほど大きな影響は与えていない。この結果からは今後は、開催者が期待している「宣伝活動の強化」を中心とした支援対策が必要であることが指摘される。

一方、影響度による平均構造をみると、影響度が最も大きい要因としては『⑮行政支援対策の立遅れ』が挙げられ、次いで『⑮開催場所の問題』『①駐車場整備の立遅れ』等の交通への影響を含めた「開催場所に関する問題群」、『⑭若年層の関心の低下』、『⑩コミュニケーションの場としての施設整備の立遅れ』の順となっている。これら影響度の大きい要因は『⑬宣伝活動の立遅れ』に大きな影響を及ぼしており、換言すればこれらの問題を解決することが宣伝活動の強化につながるということを示唆している。したがって、宣伝活動の立遅れを解決するためには行政支援にのみ期待するのではなく、開催者自らも努力することが重要であり、さらに『⑬宣伝活

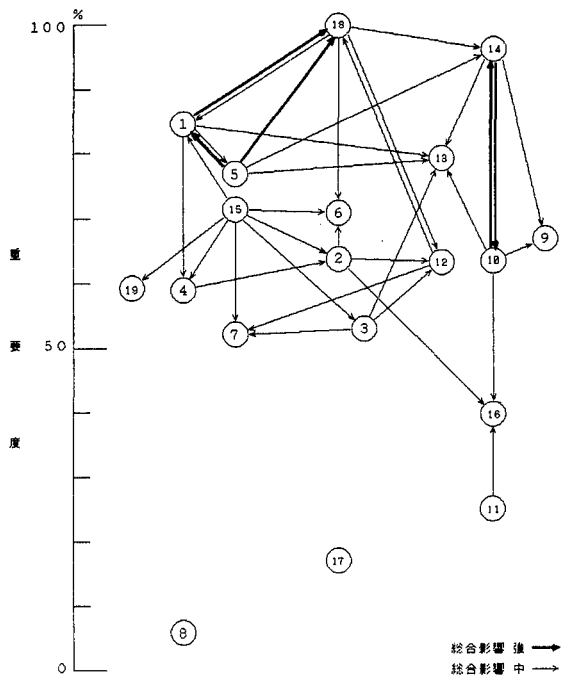


図-5 重要度による平均構造（道路開催）

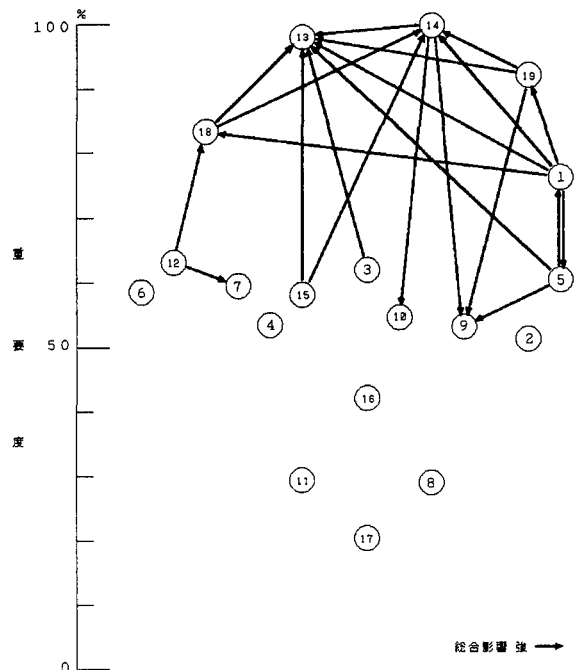


図-6 重要度による平均構造（道路以外で開催）

動の立遅れ』に『⑮開催場所の問題』『①駐車場整備の立遅れ』『⑭若年層の関心の低下』等が大きく影響していることから駐車場等の環境整備やコミュニケーションの場としての整備を行うことも肝要である。

（3）開催場所別の問題の構造化

定期市開催・運営上の問題構造はその開催場所の形態によっても異なると考えられる。そこで、開催者の回答を「道路で開催している地域」「道路以外で開催している地域」に分類して DEMATEL 法を適用し、問題の構造化を行った。

図-5、図-6は2地域群別の平均構造を重要度によって示したものである。図中の各評価要因間の総合影響行列の度合の表示は、図-1、図-2と同様である。なお、図-6では「強」のみで十分説明できると判断したため「中」と「弱」は省略した。

これをみると、道路開催の地域群では『⑮開催場所の問題』が最も重要度が大きく、続いて『⑭若年層の関心の低下』『①駐車場整備の立遅れ』となっている。最も重要度の高い『⑮開催場所の問題』は『①駐車場整備の立遅れ』『⑤一般通行車両への影

響』から大きな影響を受けており、この地域群の問題構造は道路で開催している関係上「交通」に大きく影響されているようである。また、『⑭若年層の関心の低下』と『⑩後継者問題』が互いに強く影響し合っている。このことから、道路開催の地域群は「開催場所も含めた交通に関する問題」と「若者に関する問題」の2つの課題を抱えていることが判明した。

一方、道路以外で開催されている地域群では『⑭若年層の関心の低下』が最も重要度が大きく、次いで『⑮宣伝活動の立遅れ』『⑯コミュニケーションの場としての整備の立遅れ』『⑮開催場所の問題』の順となっている。またこの地域群は、道路開催の地域群に比べ各評価要因間の総合影響が強く、道路開催の地域群のような単純な問題構造ではないことが明らかになった。この地域群を道路開催の地域群と比較すると、「交通」も重要であるが、それにも増して『⑭若年層の関心の低下』『⑮宣伝活動の立遅れ』『⑯コミュニケーションの場としての整備の立遅れ』が重要であることが判明した。

ここで特筆すべき点は、道路開催以外の地域群の『⑯コミュニケーションの場としての整備の立遅れ』

の重要度が道路開催の地域群のそれよりも高く、多くの他の要因に影響を与えていることである。このことは、道路開催の地域群よりも広場などの道路以外で開催している地域群の方がコミュニケーションの場としての整備の立遅れを定期市開催・運営上の問題として強く認識していることを示している。他方、道路開催の市ではこの問題の重要度はあまり高くなく、このことから昔ながらの風情を残す道路開催の市の方がコミュニケーションの場として適していることを示唆している。これは、道路開催では定期市を利用しようとする人々の集団のみならず、不特定多数の人々も往来するために諸々の形態のコミュニケーションが自然と形成されてきたためと思われる。一方、道路以外での開催の場合は広場等で開催されているわけであるが、これらの場所は定期市を利用するための人々のみがアクセスするのであり、この点コミュニケーションの形成は道路に比べ限定されたものになると考えられる。

5. まとめ

本研究では、定期市開催・運営上の問題を構造化し、行政と開催者の問題構造の差異を明らかにするとともに、開催場所別における問題構造を比較することによって、定期市問題の解決の方策を検討することを目的とした。分析からは定期市問題の構造を視覚的、定量的にとらえることができ、多くの示唆のある結果が得られた。それらを要約すれば次の通りである。

(1) 主体別の問題の構造化からは、定期市に携わる主体によって認識する問題構造が異なり、行政支援に対する意識にも差異がみられることが明らかになった。行政は支援対策として駐車場整備等の「定期市を行う施設としての環境整備」を考えているのに対し、開催者はこれまで行政が支援対策としてあまり重視していなかった「宣伝活動」に対する支援を期待している。

(2) 2つの主体の平均構造を求めた分析からは、行政および開催者双方の意見を組み入れた行政支援対策の方向性が示唆された。定期市の活性化のためには、開催者が期待している「宣伝活動の強化」を中心とした支援対策が必要であることが明らかにな

ったが、行政支援に頼った宣伝活動にのみ期待するのではなく、駐車場等の環境整備やコミュニケーションの場としての整備を行うことも重要であることが判明した。

(3) 開催場所別の問題の構造化からは、道路で開催されている地域よりも道路以外で開催されている地域の方が、問題が複雑に絡み合っていることが判明した。また、道路以外で開催されている地域は道路で開催されている地域に比べ、コミュニケーションの場としての整備の立遅れが目立っており、昔ながらのコミュニケーションが自然に形成される道路開催の方が定期市を開催する場所として適していることが指摘された。

本研究では、「定期市に携わる主体」「定期市を開催する場所」の2つの視点から問題の構造化を行い定期市問題の解決方策を検討した。しかしながら、問題構造を規定する要因としてはこの他に「行政支援の程度」や「定期市のにぎわいの度合い」なども含まれると考えられるため、これらの規定要因のさらなる分類・整理を行うことが重要である。また、本研究では定期市開催を支援する側の行政、そして実際に定期市を開催している主催者（開催者）の両者に対して定期市開催・運営上の問題構造に関して分析を行い、両者間の問題認識が大きく異なっていることが把握された。この両者において問題認識に差異があることは、もう1つの主体である利用者とも問題認識に違いがあることが容易に想像される。すなわち、行政、開催者双方ではあまり重要度の高くなかった要因、例えば「商品価格の問題」「商品の季節性の衰退」「商品の品数の画一化」など商品そのものに関する問題群が大きくクローズアップされる可能性がある。したがって、今後は利用者に対しても同様な問題の構造化を試み、さらなる問題の定量的把握を行う必要がある。加えて、本研究の最終目標が定期市を地域のシンボルとするとともに、地域活性化の1手段においていることから分析内容の信頼性を一層高めることが希求される。今後データ数を増加させて分析を進めると同時に、合意形成のためにも「行政」「開催者」「利用者」3者の問題認識の平均構造を求めることが重要となってくる。

参考文献

- 1) 喜多村俊夫：地方市場の発展・残存と其の要因に関する歴史地理的研究、人文地理 2-4、PP.1-13、1951
- 2) 中島義一：三重県北部の定期市、駒沢地理 VOL.24、PP.11-29、1988
- 3) 松田正：輪島朝市、道路 1988-8、PP.44-46、1988
- 4) 秋田さきがけ新聞、1995年5月21日（日）号
- 5) 岡村治：越後定期市における農家出店者存立の地理的基盤—蒲原地方栗林地区を中心として—、人文地理第44巻第4号、pp.20-37、1992
- 6) 小林節男：朝市でよみがえった農業と地域の連帯、あすの農村 VOL.151、pp.54-58、1987
- 7) 権名義光：朝市を学校給食にお届けします、あすの農村 VOL.161、pp.90-97、1988
- 8) 原珠里、川手賢也：伝統的定期市の機能に関する一考察—宮城県古川市八百屋市の事例—、農村生活研究第36巻第3号、pp.21-26、1992
- 9) 日暮晃一、安村碩之：消費者行動からみた「朝市」における農産物市場のセグメンテーション—神奈川県伊勢原農業改良普及所管内にある朝市の事例分析—、農村生活研究第37巻第3号、pp.21-27、1993
- 10) 折田仁典、加藤裕康、湯沢昭：DEMATEL法による定期市問題の構造化に関する研究、都市計画論文第30号、pp.505-510、1995
- 11) 石原潤(1974)：「韓国の定期市について」、地理第19巻第1号、PP.122-130
- 12) 石毛直道、ケネスラドル(1987)：「韓国の定期市「場市」」、季刊民族学、PP.102-113
- 13) 樋口節夫(1956)：「都市中心地域と市場との連鎖関係について—大阪市を中心として—」、人文地理 8-2、PP.45-56
- 14) 石原潤(1971)：「越後における定期市の展開について—覚え書き—」、名古屋大学教養部紀要 19、PP.129-143

定期市開催・運営の問題構造化に関する研究

折田 仁典・加藤 裕康・清水 浩志郎

本研究は、定期市が地域活性化の1手段となり得るとの認識のもとに、定期市が抱える問題の構造化を行い、その問題構造化から定期市開催、運営上の問題の解決策を検討した。分析は、先の研究成果を踏まえ、①定期市に携わる人々の立場（行政、開催者）、②開催する場所（道路、道路以外）の2つの視点から定期市問題の全体像を明らかにしている。その結果、定期市を活性化するためには宣伝活動といった分野にも行政支援が必要であることが示唆された。また開催場所別の分析からは、定期市の開催場所には道路が適していることが指摘された。

A Study on Systematization of Regular Markets Problems

By Jinsuke ORITA, Hiroyasu KATO and Koshiro SHIMIZU

The issues concerned with promoting and operating regular local markets have been analyzed by the DEMATEL method, and the some countermeasures for the problems have been examined on the basis of the assumption; the regular local markets are useful to activate regions.

In this analysis, systematization of the problems has been clarified including their influential relationship from the two viewpoints; the standpoints of people concerned with these markets and promoting locations.

As a result, it has been referred that advertising operation is needed from administrative supports and that streets are a suitable place for operating regular markets.